

‘18(平成30)年4月27日



# 5月 釜小だよ

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



## 青葉の色

校長 岡野 真由美

初夏の俳句といえば、すぐに頭に浮かぶのは「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」です。この句は江戸時代前期の俳人 山口 素堂の代表作で、1678年ごろの作品ではないかといわれています。直訳すると「目には青葉が眩しく映り、耳には山にいるホトトギスのさえずりが聞こえ、口には初鯉の味が広がるものだなあ。」ということでしょうか。季語は「青葉」「ほととぎす」「初鯉」の3つで、一般的には「季重なり」という嫌われる用法なのですが、季節を表す語を羅列することで、むしろ心地よく5月という初夏の風景・世界観を表現しようとした素堂の巧みさが伺えると言われています。声に出して読むほどに、目で見たこと、耳で聞いた声、口で感じる新鮮さだけでなく、文字の中に表現されていない香りや清々しい気持ちまでも感じ取ることができる俳句です。

5月。釜利谷小学校の周りの緑は若葉から青葉に変わりゆく美しい頃を迎えます。私はこの時期になると山々を眺めながら、この場면을絵に表すとしたらどの絵の具を使ったらよいだらうかといつも考えます。小学生の頃、図工で「5月の風景」をテーマにした絵の題材を学習したことがありました。青葉や若葉を表現したかったのですが、当時の私には絵の具セットの「ヴィリジアン」と「黄緑」だけでは足りないと思いながらもうまく色を作り出せるような技能はありませんでした。確かに「緑」なのですが、茶色っぽい緑であったり、灰色がかっていたり、黄色に近かったり、鮮やかな緑であったりと、いったい何色あるのだらうと数えてしまいたくなったものです。今、高学年の子どもたちが図工の時間に木々の葉や草の緑を描いている様子を見ながら、自分ならどの絵の具を使ってこの緑を作り出さだらうと思いを広げています。「緑色」と一口に言っても、その種類は驚くほどあります。古来の日本的な「鶯(うぐいす)色」や「萌葱(もえぎ)色」のような呼び方もあれば、英語名の「emerald green (エメラルド・グリーン)」や「mint green (ミント・グリーン)」といった呼び方もあり、色合いもそれぞれ異なります。私が勝手に「アマガエル色」とか「ブロッコリー色」などと名付けている緑色もあります。だいたいどんな色か、想像していただけることと思います。

「目が疲れてきたら、遠くの緑をじっと見ると回復する。」という話はよく耳にしますが、実際には「心や身体の疲れを癒す」「疲れた目を休ませる」「鎮静作用で緊張を緩和する」「リラックスの作用がある」「穏やかな気持ちを与える」といった心理効果が確かにあるそうです。教室の黒板が深い緑色である理由もそのあたりにあるかもしれません。

この季節に限らず、釜利谷のまちは四季折々の美しさを楽しむことができる地域です。通学路の自然に目を留めながら、すてきな発見をたくさんしてほしいと考えています。